肢体不自由養護学校高等部の歩み

―兵庫県立播磨養護学校高等部の草創期の教育―

〇高村法保
（元北海道岩見沢高等養護学校）

KEY WORDS: 肢体不自由教育　兵庫県立播磨養護学校　高等部教育

Ⅰ．はじめに

肢体不自由養護学校高等部の嚆矢は1958(昭和33)年4月1日に開校した東京都立光明養護学校に始まる。続いて高等部が愛知や北海道、大阪につくられ、少数であるが全国的にひろがっていく。筆者は先の第53大会(仙台)で「北海道の肢体不自由養護学校(高等部)の歩み」(北海道真駒内養護学校(以下、真駒内養護学校)）の草創期の教育を取り上げ、報告した。

そこで本報告では、真駒内養護学校と同年代に開校した兵庫県立播磨養護学校高等部の草創期の教育活動を、資料（『肢体不自由教育』(第13号、第54号)、『肢体不自由教育の発展』（改訂増補版）等をもとに紹介する。

Ⅱ．兵庫県立播磨養護学校高等部の草創期の教育

１．兵庫県立播磨養護学校高等部の開校

兵庫県立播磨養護学校（以下、播磨養護学校）は、1967（昭和42）年に中学部・高等部を置き、全県を対象に全寮制の肢体不自由養護学校として開校した。

高等部の入学者は本校の中学部も含め、肢体不自由養護学校（県立・市立)、通常中学にわたっている。身体的に重度の障害をもつ生徒は少なく、寮生活ができる者となっていた。

２．学級編成

原則として自然学級の編成をする。青年期の心理の発達段階を考えるとき、しかも全寮制である集団生活にあって特別学級をつくることは、人間発達の面や社会復帰に対してよい結果をおよぼすとは考えられない。

３．教育課程の変遷

播磨養護学校高等部は1967(昭和42)年4月10日、普通科1学級・職業科1学級（商業コース・家庭コース）の通常高校に準じた教育課程で発足。

1968（昭和43）年、職業科が商業科と家庭科に分かれる。これにともない、学科は普通科・商業科・家庭（家政）科の3学科体制となる。定員は各学科10名である。

各学科の目標は次の通りである。

〈普通科〉

通常高校に近い教育課程を編成し、1年生は選択科目を設けず、自己理解に重点を置く。2年より商業コースを設定し、希望によって商業科目15単位を履修できる。

〈家政科〉

生活経験を中心とし、生徒自身の生活の中に必要な各種の諸動作を習得させ、将来の社会的自立を築くことを目的とする。進路に応じ単位を多くし、実技の向上を図り、卒業後それぞれの能力に応じた社会生活ができるよう配慮した。

〈商業科〉

①他の商業高校、または商業科とほとんど同等の教育課程を編成。経理事務関係の科目に系統性を持たせ、能力別要素を加味して、個別指導の徹底をはかり、多種実務検定試験を目的とする。

②商業に関する科目を多目的に指導し、専門化された商業知識や技術の習得を持って社会復帰への素地をつちかう。

1969（昭和44）年、学年の進行とともに多様化できるよう配慮。英語・数学・国語をそれぞれ習熟度別編成とする。

４．卒業生の動向

第2回卒業生（1970（昭和45）年度:28名）と第3回卒業生（1971（昭和46）年度:30名）の進路先は次の通りである。

官公庁(6)　製造(28)　販売サービス(10)
4年制大学(2)　短期大学(2)　各種学校(5)
授産施設(2)　自営(3)

Ⅲ．考察

播磨養護学校高等部は1967(昭和42)年、普通科1学級・職業科1学級が設置され、通常高校に準じた教育課程で出発。同年代に創設された真駒内養護学校高等部は1964(昭和39)年5月、商業科として開校した。真駒内養護学校高等部の草創期と比較しながら、播磨養護学校高等部の特色を検討する。

真駒内養護学校高等部は商業科（1学級）として認可され、通常高校（商業高校）に準じながら、職業教育を行なう。商業科の中に男子には電気、女子には被服のコースを導入した。

1965（昭和40）年11月、商業科が電気・被服・商業の3コースになる。1970（昭和45）年、生徒の実態・父母の要望・生徒の上級学校進学等の希望を考慮して、職業科ながら「普通」のコースを設け、4コースに増えた。

1974（昭和49）年以降、生徒の実態から一斉指導が困難となる。教科指導（理科・数学・国語・社会・保健体育）を二グループに編成し、学期ごとにグループ内の移行ができるよう弾力性をもたせた。

１．学科の構成

播磨養護学校高等部は普通科・職業科で出発したのに対し、真駒内養護学校高等部は職業科（商業科）の単学科で開校した。他の肢体不自由養護学校高等部の開校時の学科をみると、大阪府立堺養護学校は1966（昭和41）年に普通課程と商業課程が創設された。愛知県立養護学校は1960（昭和35）年に普通科、1966(昭和41)年に商業科がそれぞれ設置される。

学科の構成は播磨養護学校と大阪府立堺養護学校が類似している。一方、真駒内養護学校は生徒の実態から単学科でありながらもコース制を導入し、ミニ学科的な面を持たせた。愛知県立養護学校も開校時の普通科にコース（普・家・商・工芸）を設定し、のちに商業が独立して学科となっていった。

２．職業的自立の志向

高等部の「学習指導要領」が制定されていない中で、播磨養護学校や真駒内養護学校は、通常高校に準じた教育活動が始まった。

卒業後の学校から社会への移行は大きな課題である。播磨養護学校に普通科と職業科が設置されたのは、職業的自立に力を入れたと思われる。また、普通科の中に職業教育（商業の履修が可能）の導入は、高校の目的（普通教育と専門教育を施す（学校教育法第41条））からみて、注目に値する。

３．生徒の実態に応じた教科指導

播磨養護学校でも生徒の実態が変化し、教科指導の難しさが出てくる。英語・国語・数学は習熟度別編成を採用した。真駒内養護学校では理科・数学・国語等を二つのグループに分け、生徒の実態に応じた教科指導を進めた。

Ⅳ．課題

①播磨養護学校高等部の資料の発掘、②1960年代の肢体不自由養護学校（光明養護学校等）の教育実践の検討、③肢体不自由教育における職業教育の在り方などが考えられる。

（ＴＡＫＡＭＵＲＡ　Noriyasu）